

さいたま市長 12月定例記者会見

平成24年12月12日（水曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 それでは、定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。

 それでは、記者クラブ幹事社、埼玉新聞社さん、進行をよろしく願いいたします。

○ 埼玉新聞 12月の幹事社を務めます埼玉新聞と申します。よろしくお願いいたします。

○ 市 長 よろしく申し上げます。

○ 埼玉新聞 それでは、本日の記者会見内容につきまして、市長のほうからご説明をお願いします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。

 先ほど午前9時49分に北朝鮮のミサイルが発射されました。日本をはじめとするアジア諸国の平和と安全を脅かす行為であり、決して容認できるものではなく、まことに遺憾であります。今回は、本市でも不測の事態に備えて、緊急の危機管理体制をしいておりましたが、日本国内では被害はなかったようでありますので、まずは安堵をいたしているところでございます。

 今後も本市では市民生活の安心、安全を確保するため、万全の措置を講じてまいりたいと思います。

市長発表

議題1：「さいたま市ひきこもり相談センター」をオープンします

 では、本日の議第に移らせていただきます。本日の議題は2件です。

 まず、1件目であります、「さいたま市ひきこもり相談センターがオープンします」についてご説明をさせていただきます。

 はじめに、ひきこもりの現状についてでございます。まず、ひきこもりの定義でございますけれども、厚生労働省による定義によりますと、ひきこもりとはさまざまな要因の結果として社会参加を回避し、原則的に6か月以上にわたっておおむね家庭にとどまり続けている状態というふうに定義をされております。

内閣府の調査によりますと、全国には推定で69.9万人いるというふうに推定されております。

さいたま市内の推定値でございますが、さいたま市の場合は全国のおよそ100分の1の人口を有しておりますので約7,000人、これに加えて不登校の小中学校生、これが990名おりますので、合わせて8,000名というような数値を推定をいたしているところでございます。

ひきこもりへの対応の課題ということでございますが、これまでこころの健康センター、そして保健所、各区保健センター、教育機関や民間機関が支援をしております。

こうした中で、やはり総合的な窓口がないために、ご本人やご家族が最初に訪れた相談機関で対応されるということになっておりますので、限定的な対応しかできないという部分もございます。

また、関係機関のネットワークが十分に形成をされていないと、またご本人やご家族に支援の情報が届かない、また年齢層の広がりや医療、あるいは心理、福祉など支援体制の複合化、求められるニーズが多様化をしているというようなこともございます。

こうしたことから、さいたま市としては、相談できる窓口の明確化や早期に適切な支援を行う専門職の配置、そして関係機関との情報の共有化、また周知のための情報発信が必要と判断をいたしまして、平成25年1月から「さいたま市ひきこもり相談センター」をオープンをし、ひきこもりに対する支援の拠点づくりを行ってまいりたいと考えております。

「さいたま市ひきこもり相談センター」であります。場所はさいたま市中央区にありますさいたま市のこころの健康センター内に設置をさせていただきます。専門職であります精神保健福祉士4名をひきこもり支援コーディネーターとして配置をいたします。

特徴としましては、精神保健福祉の専門職であります精神保健福祉士によるひきこもり問題の適切な評価と、そして支援、また医療や教育、福祉など、地域の関係機関との連携、また児童期から青年期にわたる幅広い年齢を対象とするということが主な特徴でございます。平成25年1月7日の月曜日から業務を開始をいたします。

業務内容についてでございますが、まず最初の1つとしましては、相談

支援ということでございます。これは、電話、面談、訪問、メールの4つからアクセスができるようにしてまいります。実施日は予約が必要なものがありますので、あらかじめ周知を十分に図ってまいりたいと考えております。

また、グループ活動というのがこの真ん中にございますが、このグループ活動は、本人のグループを対象としたものと、本人が出てこれないので、家族のグループを対象にしたものと、2つのグループに対して対応していきたいと考えております。

本人グループにつきましては、ひきこもりの児童、思春期、青年期のご本人に対しまして、ミーティングであるとか、あるいは社会体験などの集団活動プログラムを通しましてトレーニングを実施をして、社会参加へのステップを支えていこう、支援をしていこうというものでございます。

それから、家族グループに対しましてですが、これはひきこもりの方のご家族に対しまして、家族教室というものを実施をして、知識の習得や家族同士のミーティングを行うことによって、ご家族の抱える不安の軽減、また対処方法などの情報交換を実施をしてまいりたいというふうに考えております。

次の業務は、地域の連携ということでございます。ひきこもりは、精神疾患、あるいは発達障害、不登校、就労、ご本人やご家族の高齢化など、背景、要因が多様化をいたしております。教育機関、福祉サービス機関、医療機関、家族会等のNPO法人や就労支援機関、あるいは行政機関等の複合的な連携というものが必要になってきております。

この相談センターの設置に合わせまして、「さいたま市ひきこもり対策連絡協議会」というものを設置をいたしまして、情報交換等の地域連携を図っていくと同時に、相談内容に応じました適切な支援が行えるようにネットワークを構築をしてまいりたいというように考えております。

第1回協議会を準備会的に既に10月の29日の月曜日に開催をいたしました。その中で、協議会のもとに児童・思春期という期と、あと成人期と、この2つのワーキング・グループというものを設けて、それぞれ課題を整理をして、それをもとに協議会で意見交換を行って、解決策等を話し合う体制をとっていこうということになりました。

今後、ワーキング・グループを1月に行い、また3月に第2回協議会を開催する予定となっております。

次は、3番目は研修・技術支援ということですが、これとしましては研修会の開催、また事例検討会を開催してまいります。

既に予定をいたしておりますものは、来年2月に関係機関の職員を対象といたしまして、医療法人社団爽風会佐々木病院の診療部長をさせていただきます斎藤環先生を講師としてお招きをしまして、不登校、そしてひきこもりについての研修を開催する予定となっております。

また、普及啓発でございますけれども、これは市民向けの講演会を開催をしたり、ひきこもりについてのパンフレットの作成、配布を行って、皆さんに引きこもりについてのご理解を深めていただくという活動でございますが、まずこの講演会のほうでございますが、市民向け講演会をセンター開設のプレ事業ということで開催をさせていただきます。

「ひきこもりからの回復～当事者・家族・支援者の経験から～」という題名で、ひきこもりの専門家であります白梅学園大学子ども学部教授の長谷川俊雄先生による講演と、そしてひきこもり当事者とご家族の体験を発表してもらおうという、そういった講演会を実施をする予定でございます。会場は、市民会館うらわのホールで行います。

このセンターの設置によりまして、さいたま市のひきこもり対策のさらなる充実を図っていきたいというふうに考えております。

不登校やひきこもりの問題は、解決の困難な事例も多いかと思いますが、本市としては、ひきこもり問題を抱える子ども、そして家族が孤立化しないように、市民の誰もが幸せを実感できるまちづくりに向けて、チャレンジをしていきたいというふうに考えております。

最初のひきこもり相談センターの設置については以上でございます。

議題2：大宮駅東口大門町2丁目中地区の市街地再開発事業について

続きまして、議題2でございますが、「大宮駅東口大門町2丁目中地区市街地再開発事業について」ご説明をいたします

まず、大門2丁目中地区の場所でございますけれども、大宮駅の駅前広場から約200メートル離れた場所でございます。中山道と、それから大宮中央通線、それから氷川緑道西通線などに囲まれました約1.4ヘクタ

ールの場所でございます。付近にはデパートでありますとか、あるいは銀行などの建物、またここが大宮区役所になりますので、大宮区役所のすぐそばというところでございます。

この地区は、老朽化した建物、また細分化された土地、市有地を含めた低未利用地などの課題もございまして、一体的な土地活用が望まれている地区でございます。現在、地元の市街地再開発準備組合が再開発の事業化を目指して取り組んでいるところでございます。

この地区の再開発は、大宮駅東口全体の再生に向けたまちづくりの起爆剤として、市民の皆さんも大変期待をし、また私自身も大変な重要な事業であるというふうに認識をしております、この事業を積極的に推進をしていきたいというふうに考えております。

以下、再開発準備組合が策定をいたしました現段階におきますまちづくりの計画案についてご説明をしたいというように思います。

まず、まちづくりの目標でございますが、「大宮駅東口のリーディングプロジェクトとして、その魅力と周辺地域へのつながりのある顔づくりの創出」というものを目的としまして、4つの目標を設定をいたしております。

1つは、「機能更新と充実」ということであります。これは、商業業務機能に加えまして、市民サービスなど地域に不足をする機能を導入し、地区の魅力を高めていこうというものであります。

2つ目「が地域の拠点の整備」ということでございまして、大宮駅東口の顔にふさわしい、にぎわいと魅力のある、ランドマーク性のある施設を実現するというものであります。

そして、3つ目が「人と緑のネットワークの創出」ということで、氷川参道との中間的な場所にあることから、街路樹などによりまして緑の連続性を確保してまいりたいと考えております。

そして、4つ目が「新しい都市環境の創造」ということで、景観やあるいは周辺環境に配慮したまちづくりを進めてまいります。

続きまして、施設計画案について説明をさせていただきます。

これが施設計画案の平面図ということになります。目標であります周辺地域とのつながり、人と緑のネットワークに配慮いたしております。

まずですね、人の流れのところでございますけれども、このところで

すね。これは、隣接街区と歩行者動線を確保して、人を招き入れるというふうなものでございます。

そして、この部分は人を招き入れるしつらえということで、大宮の中央通線、そして中山道との交差点の付近に広場を設けて、施設全体の顔としての空間を創出してまいります。

また、この中央部にあります辻広場でございますけれども、ここはみんなの広場や辻広場というものを設けまして、いろいろなイベントを開催をして、そして人々が集い、また憩う場所として魅力的な空間をこの中に創出をしようというところであります。

次に、施設の立面図のほうでご説明をさせていただきたいと思っております。これはですね、大宮中央通線から見た断面図といいますか、立面図でございます。

まず、左側のほうでございますけれども、こちらが中山道ですね。中山道に面します敷地西側にですね、商業・業務棟としまして、つくってまいります。そして、低層部には商業施設、高層部にはオフィス機能を配置してまいります。

建物は、地上18階建て、高さ約90メートルというものであります。

また、こちらの右側でございますが、施設の東側は公共・公益施設棟ということで、NHKの放送会館機能、またコミュニティ機能及び市民会館おおみやのですね、ホール機能を配置してまいりたいというふうに考えております。

ホールの大きさは、現在の市民会館おおみやの大ホール、それから小ホールと同じぐらいの規模のホールを想定をいたしております。こちら側は地上10階建て、高さ60メートル程度の建物の規模を想定しております。

延べ床面積は、建物全体で約8万4,000平方メートルの計画でございます。

こうした施設をつくる事業の枠組みとして、一連の都市計画の見直しが必要となってまいります。その中で、次の4点についての都市計画の決定変更を行っていかうと考えております。

1つが第1種市街地再開発事業ということで、この事業を行うための設定区域を定めるものでございます。

2つ目としては、用途地域ということで、特に容積率ということで、この地区は容積率400%並びに600%の区域であります。これを700%の区域に変更してまいるということであります。

そして、3つ目が防火地域及び準防火地域についてであります。現状としては準防火地域になっておりますが、これを防火地域へと変更をしてまいります。

それから、高度利用地区につきましては、先ほど平面図で説明をいたした歩行空間やみんなの広場など、誰もが利用できる空間を確保することから、容積率を750%まで認めるというものに変更を行っていきたくと考えております。

最後に、今後のスケジュールということでございますけれども、本地区の都市計画手続につきましては、スピード感を持って取り組んでいきたいというように考えておまして、都市計画案の縦覧、そして都市計画審議会を經まして、今年度内の都市計画決定告示に向けて進めてまいりたいというふうに考えております。

平成25年度の組合の設立、それから事業計画認可、27年度からの工事着手、平成29年度の竣工を目指して、市も積極的に支援をしてまいりたいというように考えております。

この地区の開発が進めば、大宮駅東口の開発に弾みがつくというふうに期待をしているところであります。その大事な一歩として、またリーディングプロジェクトとして私たちとしても全力で取り組んでいきたいというふうに考えております。

私からは以上でございます。

関連質問

- 埼玉新聞 ありがとうございます。市長からの説明について質問のある社はよろしく申し上げます。
- 埼玉新聞 埼玉新聞です。概算事業費約480億円のうちですね、市の負担金はどういう形なんでしょうか。
- 事務局 大宮駅東口まちづくり事務所からお答えします。
収入でございますが、市と国からは3割ほどの資金でございます。また、保留床処分金として、その事業費の約7割が保留床処分金で賄っていくと

というような感じです。

以上でございます。

- 埼玉新聞 済みません、市と国の3割というのは、それぞれの内訳。
- 事務局 市費とですね、あと国庫補助金です。
- 埼玉新聞 合わせて全体の3割。
- 事務局 3割です。

幹事社質問

衆院選の争点と市長の見解について

今年を漢字1字で表すと

任期まであと半年。やり残したことは。

次期市長選について

- 埼玉新聞 ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、幹事社として代表質問をさせていただきます。質問はまとめて行いますので、よろしくお願いいたします。

まず1点目がですね、今週日曜日に投開票になります衆院選について、気になる争点と、それについての市長のご見解がありましたらよろしくお願いいたします。

もう一点がですね、今日が今年最後の会見になります。1年を振り返りまして、漢字1文字であらわすとどんな年だったでしょうか。また、その理由もあわせてお願いします。

3点目がですね、任期まであと半年となりました。やり残した課題、ありましたらよろしくお願いいたします。

それと、最後の1点は、次期市長選についての見通しをよろしくお願いいたします。

- 市長 それでは、幹事社からの質問に順次お答えをしたいというふうに思います。

まず、1点目の衆院選の気になる争点と、それについての市長の見解はというご質問ですが、衆議院選挙の争点といたしましては、前回の記者会見でも申し上げましたとおり、私自身は経済財政政策と地域主権改革について、各党がどのような政策を掲げているのかを注目をいたしております。足元の経済情勢は、世界経済の不透明さもありまして、全国的にも、また

さいたま市内でも先行きは弱含みという状況になっております。新聞の世論調査でも、最も重視する争点に景気対策が挙げられておりますが、今の経済情勢を、これらも反映をしたものではないかと思っております。

地域主権改革につきましては、この3年間で国と地方の協議の場の法制化、また地域主権改革一括法の制定による義務づけ、枠づけの見直し、また一括交付金の導入など、相当程度進んだものと考えておりますが、今後につきましても、さらなる地域主権改革というものについてどのように考えているかと、道州制の問題であったり、あるいは出先機関の改革の問題であったり、多少ニュアンスの違いもあるというふうに見ております。

各政党それぞれのマニフェスト、また政権公約についてのコメントは、現在選挙期間中であるということから、私自身のコメントとしては差し控えさせていただきたいと思っておりますが、政党が12にも上るということで、有権者の皆さんが各党の政策を十分に理解するには、まだ至っていないのではないかと思います。各党が掲げておりますマニフェスト、あるいは政権公約というようなものなどについて、やはり十分吟味をしていただきたいというふうに思っておりますし、また各政党間におかれましては、投票日までは残り少ない日時となってまいりましたけれども、国政選挙は国の課題が国民の皆さんに伝わる数少ない機会でありますので、それぞれのお立場から十分な論戦を戦わせていただきたいというふうに思っております。

続きまして、2つ目の1年を振り返って漢字であらわすとということについてでございますが、1字であらわすと、私は今年も「絆」というふうに申し上げたいと思っております。1年の年頭に、「さらに強い絆で結ばれたまち」を目指そうということで、今年年頭でもそういった言葉を申し上げたところでありますけれども、この1年間も振り返ってみますと、悪い例としてはちょうど2月に北区で孤立死の問題などが起こりまして、地域や、あるいは近隣住民、また行政との関係といったものが改めて、見直していく必要があるのではないかなという問題提起、あるいは課題が露呈したところであります。私たちとしても、この事件後にですね、事業者の協力のもとに通報体制を構築をしようということで、その防止に向けたさまざまな取り組みを行ってきた、また行っているところでありますけれど

も、今後もこういったものも踏まえて、この「絆」という言葉の重要性が今年もさらに増したというふうに考えております。

また、いいほうで言いますと、さいたまシティマラソンを開催させていただきまして、今年のちょうど3月の11日、昨年の東日本大震災からちょうど1年後ということで、「被災地の復興を願って」ということをうたい文句にして開催をさせていただきました。被災地からも、また全国からもたくさんのランナーの方々に参加をいただきました。そして、全員黙祷の後、復興メッセージの書かれたゼッケンをつけて、それぞれ力走いたしました。ちょうどこのマラソンのコースのスタート、またゴールになった場所が「さいたまスーパーアリーナ」ということで、まさに去年の東日本大震災のときの避難場所として設置をされた場所でありまして、多くの避難者の方々もおいでいただくとともに、たくさんのボランティアが全国から来た、まさにシンボリックな場所であるというふうに考えておりますが、その中でこうしたマラソン大会が開かれて、そして多くのランナー、そしてボランティア、そして会場で応援してくれている皆さんと、まさに一体となって、しっかりと絆が結ばれて、この大会の運営ができたのではないかとこのように考えております。そういった視点から、今年は「絆」ということで申し上げたいと思います。

続きまして、3つ目ですね。任期まであと半年、やり残した課題はについてでございますけれども、今年度が最終年度でございます「しあわせ倍増プラン2009」、また「行財政改革推進プラン2010」につきまして、現時点では8割以上の事業が目標を達成したという評価をいただいているところでございます。残り半年で少しでも多くの項目が実現するように、また目標を達成しているものにつきましても、さらに上の目標を目指して推進をしていきたいというふうに考えております。

個別のプロジェクトといたしましては、今冒頭で少しご説明をさせていただきました大宮駅周辺再開発のリーディングプロジェクトであります大門町2丁目中地区再開発事業について、年度内の都市計画決定を目指しております。大宮は、さいたま市の顔であるとともに、東における首都圏の玄関口という場所でもございます。また、一日の乗降客が65万人というですね、全国でも屈指の駅でありますので、その再開発ということは、

多くの市民の皆さんが期待を寄せているところでもあります。

また、大宮区役所の移転、あるいは建てかえとあわせまして、まちが変わっていくことをですね、姿をぜひ示していきたいというふうに考えております。

また、本庁舎の整備につきましても、「さいたま市本庁舎整備審議会」を立ち上げまして、第1回の審議会を12月19日に開催をさせていただきます。合併後10年を経たタイミングで、きちんと議論をしていくことが私の使命であると考えております。本庁舎は、本市の行政機能の中核として、また市民のシンボルともなる大変重要な施設であります。多くの市民の方々にご理解をいただく必要があるため、結論を得るには時間を少しかけてやっていく必要があると考えておりますが、これらについてもしっかりと取り組んでいきたいというふうに考えております。

そして、4番目でございますが、次期市長選についての見通しはということでございますが、議会でも申し上げましたとおり残りの任期を全力でやっていくということで、現時点では私自身の考えが固まっているということではございませんけれども、任期もあと半年を切ったところでございますので、しかるべきタイミングで私の考えを市民の皆様にお話をしたいというふうに思っております。

以上です。

関連質問

- 埼玉新聞 ありがとうございました。
 幹事社質問について、質問のある方はよろしくお願ひします。
- テレビ埼玉 テレビ埼玉ですけれども、4番目の質問の中で、残りの任期を全力でということなんです、出馬のタイミング、しかるべきタイミングでお話ししたいということなんですけれども、年内とか来年の1月、2月ごろ、そのめどについて教えていただけますでしょうか。
- 市 長 そうですね、まだその辺ははっきりしておりませんので、しかるべきタイミングということになると思います。
- テレビ埼玉 年内、年明けますか。
- 市 長 年は、明ける可能性が高いんじゃないかと思います。
- 時事通信 時事通信と申します。よろしくお願ひします。2点伺います。

1点目は、国政選、衆院選に絡んでなんですけども、ちょっと先ほど触れられましたけれども、非常に多くの政党が今回候補者を擁立していて、公示直前になってですね、出馬表明をして、一転それを取り消すという候補者も中にはいたり、また比例名簿をですね、駆け込みで届け出るといような政党もありましたけど、こういう状況を市長はどうごらんになっているかということと、あともう一点、今テレビ埼玉さんからも質問ありましたが、市長選に関してですけど、川口市の岡村幸四郎市長はですね、今週の月曜日に市議会の本会議で出馬表明をされました。そういったことも踏まえてですね、具体的にいつごろまでに、遅くともいつごろまでにですね、出馬なり、出馬しないする、そういう判断を示されるご予定なのか、お聞かせください。

○ 市 長 まず、1点目の衆議院選挙の状況についてということですけども、特に今回は、いわゆる第3極と言われる政党が衆議院の、解散がかなり抜き打ち的であったということもあるんでしょうけれども、急に離合集散といえますか、合併をしたりといような状況がありましたので、多少の混乱は仕方がないとしてもですね、やはり余り直前に出馬をしたり、やめられるということは、やっぱり、特に小選挙区ですね、有権者の方々からすると、かなり違和感があるんじゃないかなというふうな気がいたしております。

また、比例名簿の順位の問題については、詳しくその経緯についてはわかりませんが、やはり十分に議論をいただいて、決められた期日があるわけですから、その中でしっかりと対応されるということが必要だと思いますので、名簿の順位など、これが政党にとって、あるいは個々の議員にとっても大変重要なことだと思いますけども、その辺はやはりきっちり混乱のないように事務手続を進めてほしいというふうに思います。

それから、2つ目の市長選の意思の表明ということでもありますけれども、先ほども申し上げましたとおり、現在残りの任期をまずしっかり全うしていかうということ務めさせていただいておりますが、当然任期内に、しかるべきタイミングで発表していくことが必要だろうというふうに思っておりますので、現時点ですと年内というわけにはいかないかもしれませんが、それ以降ということになるかと思っておりますけれども、しかるべ

きタイミングに市民の皆さんにしっかりと自分の考えを明らかにしたいというふうに思っています。

○ 埼玉新聞 済みません、関連してなんですけれども、まず態度は今後表明されるということですが、出馬の可能性があると思うんですけれども、それに向けた準備というのはされていないのでしょうか、10月に開かれた市政報告会はその一環かなというふうに受けとめているんですけれども、いかがでしょうか。

○ 市長 11月の、10月でしたっけ、のものについては、基本的には市政報告会でございましたので、準備ということではございませんけども、ただ、今後その決断をするのに、準備等も踏まえて検討していかなくちゃいけないと思っております。

○ 埼玉新聞 準備の一部に当たると思うんですけれども、今回の議会ですとね、各政党ともですとね、協議していくというお話しされていましたが、基本的には市民党として特定の政党との距離感は縮めないということおっしゃっていましたがけれども、でも前回の選挙では、民主党の支持を得られていたと思うんですよ。今回は、その支持、推薦に当たってはですね、あえて受けないという姿勢なんでしょうか、仮定の話で結構なんですけれども。

○ 市長 今のところ、まだどういうふうにするかということを決めておりませんので、現時点ではちょっと答えられませんけども、議会の中で申し上げましたけれども、同じ理念や、あるいは方向性を持っている方々とは、いろんな形でご議論をしていく中で決めていきたいというふうに思っております。

○ 埼玉新聞 そうしますと、民主党に限らず、その他の会派、政党ともですとね、推薦、支持ということは、その協議次第ではあり得るということですかね。

○ 市長 そうですね、はい。そういう出馬表明をした場合は。

○ 埼玉新聞 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それじゃ、ほかに質問ございましたらよろしくお願ひします。

その他

新年度予算について

○ 埼玉新聞 新年度予算についてですね、基本方針や目玉政策や進捗状況についてお聞かせください。

○ 市長 新年度予算についてはですね、この間発表しました新年度の予算方針に基づいて今作業を進めている段階です。まだ市長査定の段階までは来ておりません。今各担当部局からの概算要求に基づいて、財政局の中で査定が行われている状況でありまして、今度それを踏まえて、さらに市長査定ということになるんだろうと思いますが、まだ現時点ではそこまで行っていないという段階です。

○ 埼玉新聞 重視させる主要政策ありますでしょうか。

○ 市長 1つは、やはり衆議院の争点でも言いましたけれども、経済対策というんですかね、そういったものについてやはり、短期的な視点と、それからやはり中長期的な視点も踏まえて予算編成をしていく必要があるなと思っております。

あとは、その方針の中には子供、あるいは高齢者の支援施策の充実とかですね、あるいは防災についての対策の強化とかですね、そういった項目も当然挙げられると思いますが、そういったことなどが中心的になってくるといふふうに思っています。

ほかには。

今後5年間の市政について

○ 埼玉新聞 またちょっと前の質問に戻ってしまうんですけども、議会で市長はですね、これからの5年間でさいたま市にとって重要な時期を迎えるというふうに見通されているんですけども、それについてちょっとお聞かせいただきたいのとですね、その5年間というのが、時期ともかわってくるんですけども、どうしてもやはりご自身の手でですね、一番重要なその5年間で市の市政の前進を図りたいという意欲がおありなんではないかと思うんですが、ちょっとしつこいんですけども、改めてお聞かせください。

○ 市長 今後決断する上においてはですね、これまで自分なりに取り組んできたことと、それがどこまで進んでいるのかということをも自分自身でもう一回しっかりと検証した上で、その中でやはり私自身が出馬をして取り組んでいくべきなのか、どうかということですね、判断する必要があるというふうには思っております。

いずれにしても、ここ四、五年ぐらいがやっぱり私は大変重要な時期だ

というふうに思っています。それは、1つはさいたま市の、現状としては非常に人口がまだ増えている環境にございますけれども、だんだん減少するという局面に入ってくる、一つの直前の時期だろうと思っております。その中で、しっかりとした対策、あるいは都市経営といいますかね、自治体としてのさまざまな仕組みといったものをそういった時代に合わせて、あるいはそれらに先手を打ってさまざまなことをやっておく必要があるんじゃないかというふうに認識をしておりますけれども、私自身はこの4年間、3年6カ月でありますけれども、それを踏まえ、意識しながらさまざまな施策をやってきたつもりでありますので、その中でこれまでやってきた自分自身の政策の部分と、あとそれらがどこまで進んで今後どういった部分が必要なのか等々、十分に踏まえた上でですね、考えて結論を出していきたいと思っております。

○ 埼玉新聞 地下鉄7号線も含めてですね、都市基盤整備についても、この進展というのがある程度何か一つのスパンとして見えてくる時期かなと思うんですけども、それについてはいかがでしょうか。

○ 市長 そうですね、まちづくりについても、地下鉄7号線といいますか、浦和東部、岩槻地域の、一つはまちづくり、それから大宮駅周辺のまちづくり等々ですね、やっぱりまちづくりはある程度、この時期でないとなかなかやはり手が十分に打てない時期ではないかと思っております。この5年間でどれだけ次の時代を意識した中での政策、あるいはまちづくりへの取り組みができるかがどうか、その後のね、さらにまだ人口増が続いていけるのか、あるいはもう減少ということを前提に打っていかなければいけないのか、そういう大きな分岐点にもなるというふうに認識をしております。ですから、そういう意味でこの四、五年ぐらいが一つ重要な時期かなというふうな実感といいますか、感覚は持っております。

○ 埼玉新聞 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。
どうもありがとうございました。

以上をもちまして、本日の記者からの質問を終わらせていただきます。

○ 進行 以上をもちまして、市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回の開催につきましては、年明け1月の7日月曜日、11時からを予定しておりますので、どうぞよろしく申し上げます。お疲れさまでござ

いました。

午後2時11分閉会

※ この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣いなどを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後訂正された文言等については「会見後訂正」とし、下線を付しています。